

県関係文献紹介

- 身近な生き物から見た姫路の自然. B5, 51p. (姫路市環境保全課 1993年3月刊)

この文献は姫昆サロンニュースNo.92 誌上にて相坂耕作氏が紹介されたのを拝見して同氏に御無理をお願いして1部御送り頂いたものである。

相坂氏の紹介文にもあるが環境保全課に勤務しておられる姫路昆虫同好会のメンバーの一人、大前晋氏が編集されたもので姫路市内の小学生6年生全員によるアンケート調査をまとめて姫路の自然度の評価を試みられたものである。14の生き物の内昆虫は5種類がふくまれている。この種アンケートによる調査では正しく認識、識別出来る生き物を選ばなくてはいけないと思われる(蝶が全然ふくまれている)。自然度の評価として利用出来る。いろいろと参考になる所がある。

貴重な文献をお送り下さった相坂耕作氏に厚く御礼申しあげる。

- 森 正人・北山 昭著 図説日本のゲンゴロウ A5版. 218ページ(内カラープレート24p.) (1993年6月刊)(文一総合出版・東京)

日本産のゲンゴロウ類 117種を収録。カラー図版も美しい。他に形態や生態、飼育法についても記されている。特に兵庫県産のゲンゴロウ18種がカラー図と共に示され解説されている。中には新種ヤギマルケシゲンゴロウとか未記載種ムモンチビコツブゲンゴロウがふくまれており長い間生息が心配されていたムカシゲンゴロウ、メクラゲンゴロウも共に姫路市で最近採集されているといううれしい情報もふくまれている。兵庫県のゲンゴロウについての分布状況の説明もあり県関係の文献として重要文献である。

執筆者、森 正人氏は三田学園高校から北海道大学農学部を卒業現在北山氏と共に環境科学株式会社に勤務しておられる(環境科学株式会社の荒木 裕社長、永井正身部長には紹介者つねづね御世話になっており当会の会員として会を応援して頂いている)。

森 正人氏は三田学園高校の時ヤノコモンタマムシを採集された方でこの経緯は本会会員であった父上、森 博氏(故人)が本誌上に書いておられる(Vol. 7, No. 2, 1979)。

また森 正人氏が北海道におられる時多く標本を御恵送頂いた思い出がある。

素晴らしい書を出版されたことに心から敬意を表したい。

末筆になって、大変申し訳無いが本書を御恵与下さった環境科学 K. K. 荒木 裕社長ならびに著者、森 正人氏に厚く御礼申しあげる。

○ 宝塚の昆虫 IV. 甲虫目 (II).

B5, 224 p. 4カラー図版 (宝塚市教育委員会刊)

前に紹介させて頂いた (本誌Vol. 20, No. 2, 1992) “宝塚の昆虫 IV”として甲虫の後半部 (コメツキダマシ科~オサゾウムシ科) 38科 346~806 の 461種が収められている。生態を中心としたカラープレートが4p. ついている。各種は白黒写真で示されている。甲虫類は小さいものが多いのでそれを白黒写真で示すのはかなりむずかしいと思われる。斑紋等もほとんど白黒写真では表現出来ない。大変残念である。

これだけの報告をまとめられた努力に心から敬意を表したい。執筆は数名の方で分担しておられるが全体のまとめは東 正雄・小田中 健両氏である。

この貴重な文献を御恵送頂いた小田中 健氏の御好意に感謝を申しあげる。

○ 宝塚の昆虫V. 蛾類 (II)

B5. 290 p. 8カラー図版 (宝塚市教育委員会刊) 蛾類 (II) のマガリガ科からトリバガ科まで16科とヤガ科を合わせて 560種を各種毎に写真をつけて解説されている。大変な力作である。何人かの方による援助があるが全体のまとめは東 正雄先生である。このシリーズも後僅かであるがどれもまとめるのが難しいグループである。一日も早く完成することを願っている。

本書入手についてお世話になった新家 勝氏に厚くお礼申しあげる。

尚この“宝塚の昆虫, IV, V”共に発行月日奥付には平成5年3月となっているが実際に出版また入手したのは7月である。

○ 久後地平. 兵庫県千種川のトビケラ相. シグマ: 平成4年度「研究生」報告書, 11 (1993): 37-48.

この報告についての紹介文は相坂耕作氏が姫昆サロンニュースNo.96に報じておられ相坂氏に御無理を云ってその別刷を御送り頂いたものである。表題のごとく千種川のトビケラ相の調査結果と将来への課題も示されている。色々と参考になる。採集されたトビケラの全種名が現段階では明らかに出来ないとのこと。いろいろの調査が行われても種名が確定出来ないことは致命的である。

○ 兵庫県自然教室編 自然観察マニュアルA5, 144 p. (1993, 8月. 長征社刊)

この欄で紹介する文献ではないと考えられるが20年来子供向けの自然観察会を行っている兵庫県自然教室がまとめた観察カード-子どものための観察カードモデル99選を収めてある。なかなかよく出来ている。

○ 自然環境研究所・淡路島の絶滅の恐れある野性生物 (I).

淡路島版レッドデータブック第1集.

奥谷禎一博士監修, 研究所代表登日邦明氏編集. B5版 51 p. 分布図, 写真多数 (1993年4月)

淡路島での絶滅が心配されている動植物約 100種のうち21種と植物群落1ヶ所が紹介されてる。昆虫

は6種であり内甲虫は2種取りあげられている。ゲンジボタルは淡路島ではすくなくなりつつあるよう
だ。オオヒヨウタンゴミムシも何時迄生息してくれるのか心もとない現状のようである。

貴重な本書を御恵送下さった登日邦明氏に厚く御礼申しあげる。

県関係機関誌・連絡誌

(1993・IV－IX)

姫昆サロンニュース（姫路昆虫同好会）

№90（IV・1993）、№91（V・1993）、№92、93、94（VI・1993）、№95、96（VII・1993）
№97（VIII・1993）

自然とともに（兵庫県環境管理課）

№21（IV・1993）、№22（VII・1993）

IRATSUME（但馬むしの会会誌）

№17（V・1993）

混虫ずかん（但馬むし会連絡誌）

№37（IV・1993）、№38（V・1993）、№39（VII・1993）

ハーモニ（人と自然の博物館ニュース）

№3（III・1993）№4（VII・1993）

兵庫生物（兵庫県生物学会）

Vol. 10, №4（V・1993）

兵庫生物ニュース（兵庫県生物学会）

№13（V・1993）、№14（VI・1993）、№15（IX・1993）

宝塚の自然（兵庫県自然保護協会宝塚支部）

第7号（III・1993）

のせ（大阪昆虫同好会連絡誌）

VOL. 22, №1～9（I・1993～VIII・1993）

兵庫陸水生物（兵庫陸水生物研究会）

№43（V・1993）